

うとない

Vol.442 2025.3

遊友荘

開設25周年

遊友荘は2000年4月に精神障害者生活訓練施設として始まり、25周年を迎えました。これまでの歴史を振り返り、これからについてを久野施設長に語っていただきました。



遊友荘施設の様子
上：外観 中：ホール 下：部屋

遊友荘、開所25年ということで、これまでの遊友荘の歴史を振り返ってみます。

20周年の際にも振り返りをしたのでここでは簡潔に致しますが、現在の前身「援護寮：遊友荘」の建設に際しては「援護寮建設に反対する住民の会」が結成され、町内会や苫小牧市・苫小牧保健所等関係機関や地域の方々との協議を重ねたり道外にある援護寮の施設見学をしたりなどの紆余曲折を経て2000年4月に開所したという経過があります。

実際に開所してみると、利用者と地域との大きなトラブルもなく、その年から毎年夏の町内会のお祭りに「焼き鳥」や「綿あめ」などの屋台を出店する・植苗病院の夏祭りにも出店し町内会の方を招待する・ふれあい祭を開催するなどといった地域交流も積極的にしてきました。年に一度行われていた町内会との運営会議も2020年からは問題が起こった時のみ開催されることになりましたが、この5年間は開催されていません。

2006年4月に障害者自立支援法が施行され、新体系の中に生活訓練というものがなかったため、2009年から共同生活援助（グループホームに相当）に形を変え16年になりますが、現在では町内にすっかり溶け込んだ景色となっています。

『遊友荘』と言う名称は「衣食足りて礼節を知る」という諺から作られた言葉です。「衣食住」が満たされ、はじめて人間らしい生活が出来るということですが、障害を持ちながら地域で暮らして行くには「衣・医・食・職・住・友・遊」が必要とされていることから、そのうちの「友＝ななかま」と「遊＝ゆとり」をとり、ここで仲間が増え、余暇を上手に過ごすことができ、心身共により豊かな生活を送ってほしいとの願いが込められているそうです。

現在は、入所定員10名（男性限定）のグループホームとして運営しています。市内にも、この数年でアパートタイプや一軒家タイプのグループホーム等が増えて来て、入所する際の選択肢が増えて来ていると思います。寮タイプの遊友荘は市内では少ない方だと思います。遊友荘でのここ数年の動きとしては単身生活に移行する・別のグループホームに移るなど、次のステップを希望し移行する方が増えて来ています。また、ウトナイ病院で長期入院となっている患者さんの受け入れを積極的に行っていこうと、2024年4月からは月に一度行われている「チームD（ドラゴン）」という法人内の退院支援会議にも参加して情報共有や連携を図っています。今後も個々のニーズを引き出し、心身共により豊かな生活を送れるように、より良いサービスを提供していきたいと思っています。



精神科医 田中 尚朗

第24回 駅探訪 メルローズ/セダーパーク駅

みなさんこんにちは。日本の3月といえば、鉄道廃止のシーズンですね。今回も東滝川や東根室、雄信内など、そうそうたる面々が廃止対象となってしまいました。東滝川駅に展示されている「幌倉」集落の歴史や、雄信内駅前のゴースタウンなどが思い出されます。

さて、今回訪れるのは前回のワイオミング・ヒル駅から北へ1kmほど離れたメルローズ/セダーパーク駅です。メルローズ市の中心街にもっとも近い駅といえます。ポストン・アンド・メイン鉄道の駅として、1845年に開業。当時のメルローズ市は隣のモールデン市の一部であり、駅名はノース・モールデンとなっていました。1850年のモールデン市からの独立に伴い、駅名もメルローズに変更されます。1978年にMBTAが現在の駅名に改称しています。構造は2面2線、ホームの一部に屋根がかかっています。初代の駅舎は線路の東側、2代目は西側にありましたが、1970年代末までには取り壊されてしまいました。ホームはそれほど長くはなく、他の路線の駅に比べるとコンパクトな印象です。

実はこの駅、中心街に近い割には利用客が少なく、2018年の調査では1日99人となっています。このため2020年には廃止案が出ましたが、現在もなんとか生き残っています。雄信内駅の1日乗降客は0.2人だそうですから、十分な数字と感ぜられるところですが、なにせ隣のワイオミング・ヒル駅から1kmしか離れていないので、そちらを利用すればよいだろうという話にもなりますね。町のメインストリートからは600mほど離れており、駅前で乗り継ぎできるバス路線もありません。

メルローズ市のあるエリアは1628年に最初に探検が行われ、鉄道が開通した後、19世紀後半に人口が増加しました。現在の人口は3万人ほどで、ダウンタウンには19世紀のヴィクトリア朝式の建物が多く残り、歴史地区にも指定されています。



Dr. 望月の日々雑感

精神医療という雑誌に追悼島成郎という特集がある。2001年8月に精神医療別冊として批評社から出版されたものである。藤澤敏雄さんと中川善資さんが編集に当たったものでその25ページに、「島先生と植苗病院グループ」と題名で25頁から29頁小生が書いたものを載せてもらった。208頁に及ぶ本で著名人も多い中で、恥かしながらという感じで書いたことを思い出す。初代病院長の緒方先生が強引に引っ張ったおかげで、片田舎の植苗病院副院長島先生として1992年から1994年まで勤めていただいた。当院の後は沖縄の本部記念病院に勤められたが、がんのため、2000年10月17日亡くなられた。特に女性患者さんに人気があり、時々気が付いたことがあれば院長の緒方先生と私が「なっとらんと」叱られていた。植苗を辞められた後、先生の話をお聴くために福岡に行き、終了後九州大学の友達も参加した宴会中に急に具合が悪くなり、入院され、沖縄に帰って亡くなられた。まだたくさん教えてもらえることがあったのにと残念でたまらなかった。いつ何があるかは分かりませんので、毎日を大事に過ごしたいものです。



今年の冬は苦小牧市は記録的に雪が少ない冬だったと思います。

さて、2023年12月に植苗病院はウトナイ地区に移転し名称もウトナイ病院に変わりました。引越しの日は雪になりませんようにと誰もが思ったと思いますが、確か快晴だったと思います。これも職員の皆さんの行いがいい？理事長が晴れ男？何はともあれ無事引っ越しが終わりました。その時皆さんから立派な胡蝶蘭の鉢をたくさんいただきました。

しばらく玄関ホールに置かれ患者さんや職員の目を楽しませてくれました。その後、希望者に譲渡されおそらくそこで元気になっていると思います。職員の皆さんはご存知と思いますが2鉢が5階の多目的室にあります。そのうち1鉢が今年になって3本の花芽がでてきました。胡蝶蘭は意外と丈夫でほとんどお水をやるだけで大丈夫です。多目的室の胡蝶蘭はお正月の長い休みにも結構低い室温にも枯れずにいてくれました。（どなたかお水をやってくれたようですが）

現在花芽は日の当たる方に向かってぐんぐん伸びています。花が咲くまでにはあと2ヶ月くらいかかるかなと思いますが待つのも楽しみです。ウトナイ病院もこの鉢のようにたくましく地域に根ざした病院になるとと思います。

(H.Y)

母が炒るおやつの豆をポリポリと

★
シヨ

お知らせ

この度、広報委員会では近年の省資源化とデジタル環境への移行を鑑みて、2025年4月より「うとない」の発行部数を減らすことにいたしました。社会医療法人こぶしホームページでの配信を基本とし、郵送による配布は請求書に同封する場合のみとさせていただきます。毎月10日に更新の予定ですので、ホームページをチェックしていただけますと幸いです。何卒ご理解賜りますとともに、今後とも「うとない」をご愛読いただけますようよろしくお願い致します。

ウトナイ病院ホームページ：<https://www.uenae-hp.or.jp/about/#about-3>



わがらって生きていらねえしあわせを

★
のり

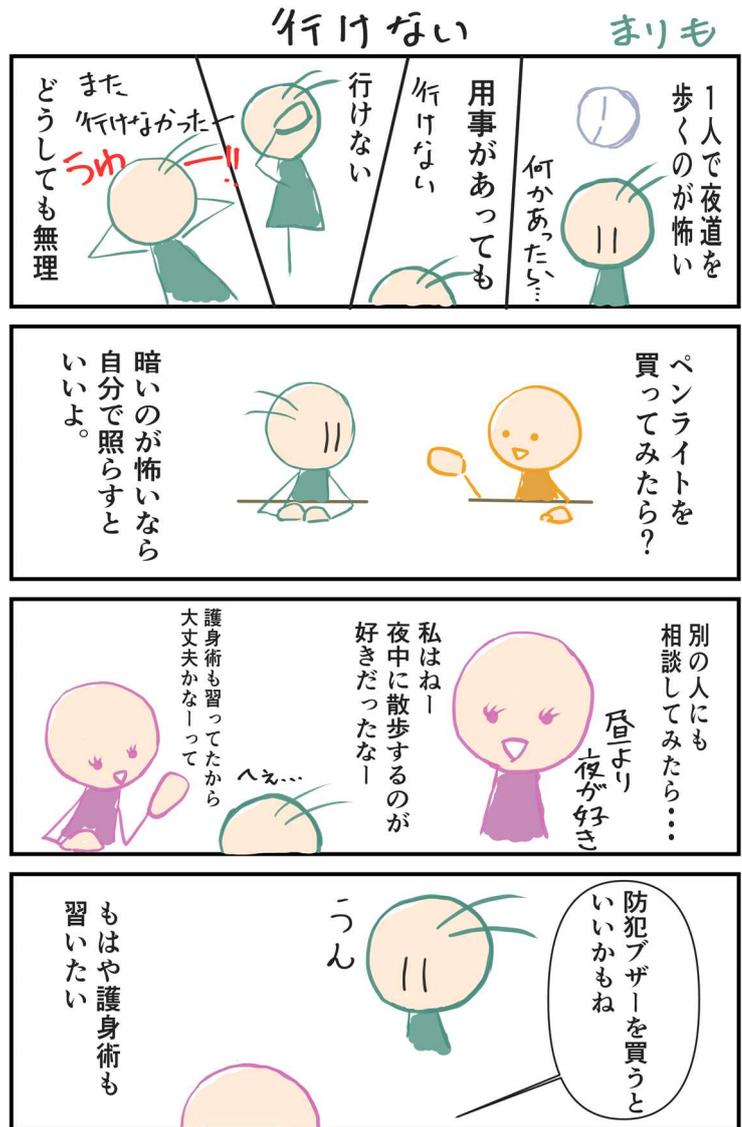


お知らせ

◆ 電話についてのお願い ◆

代表番号に電話が集中することを防ぐため、下記のように使い分けていただけますようご協力をお願い致します。

- ①外来や入院の新患受診相談 ⇒ 地域連携室直通 **0144(84)5658**
- ②受診に関することや会計・手続等のお問い合わせ ⇒ 代表電話 **0144(84)5561**
- ③入院中の方のご相談・ご連絡 ⇒ リハビリテーション部直通 **0144(84)1017**
- ④デイケア通所中の方 ⇒ デイケア直通 **0144(84)5774**



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こびし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



「どうすればよかったのか」

〈後記〉久しぶりに映画館で映画を観てきました。精神科医療に関わるものとして観ておくべきだと先輩から勧められた映画です。恥ずかしながら勧められるまで全く知らなかった映画でした。皆さんも機会がありましたら是非。

(H)